

〈今月の紙面〉

- ・全国開拓代表者大会関連記事 (2面)
- ・「岩手戦後開拓物語」開催 (3面)
- ・茶 4年ぶり増収増益に (4面)
- ・キャベツ 寒冷地でも6月収穫 (5面)
- ・乳牛 簡易装着餌寄せ装置考案 (6面)
- ・交雑去勢 牧草・トウモロコシ主体TMR給与 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
 TEL 03-3586-5843
 FAX 03-3586-5846
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

開拓営農発展へ一致団結

全国開拓代表者大会を開催

中央三団体



わが国の農業、特に畜産・酪農は生産資材価格の高止まりや肥育用畜・乳用初妊牛価格の高騰等により、経営の不安定化が増大する状況にある。加えて、日欧EPA(経済連携協定)の合意やTPP(環太平洋経済連携協定)11の大筋合意で、開拓地営農も厳しい経営環境におかれている。これらの難局を打破するため、全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会の開拓中央三団体は11月14日、東京・一ツ橋の如水会館で、全国開拓代表者大会と全国開拓青年・女性研修会を合同開催した。全国の開拓者、青年・女性の代表者ら110名が結集し、国に農業生産基盤の維持を求める議案などを審議・決議したほか、講演会を実施した。

大会は、全日本開拓者 島部長は、「戦後開拓営 翼を担ってきた。今直面 連盟青年部長塩島春樹さ 農事業は、70年余りにわ している農業危機を何と んの宣言で開会した。塩 たり、国内食料供給の一 しても乗り越え、開拓地 営農を一層発展させ、次 世代を担う若者が農業に 夢と誇りを持って、一 一致団結して闘おう」と 呼びかけた。

続いて、大会運営委員



開会を宣言する塩島 連盟青年部長

平嶋大会運営委員長挨拶

例年、「全国開拓青年 女性研修会」を各ブロッ クの持ち回りで開催し ています。また、3年 に1回の割合で、「全 国開拓代表者大会」と全 国開拓青年・女性研修会

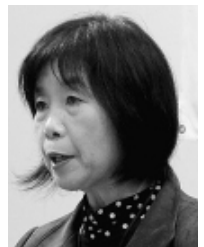
を合同開催として、こ の大会を開催してま



開拓地営農のさらなる 発展を期することを 目的に開催してま

農がさらに発展する足が かりになることを期待す る」と表明した。

決意表明文を読み上 げる齋藤さん



決意表明文

われわれ開拓営農集団 は、わが国における食料 自給率の維持向上と食料 安定供給に多大な貢献を しており、今後の日本農 業の先導的役割を果たす 重要な存在である。 今、われわれが直面し

ているわが国農業存続の 危機を何としても乗り越 え、国民へ安全で安心で きる食料を安定供給する ために、われわれ農業経 営の維持発展を確保しな ければならない。 生産資材価格の高騰・ 国際貿易交渉の行方等、 農業を取り巻く環境は極 めて厳しい状況である。

われわれは、専業農家 集団である開拓農家の一 員として、全国開拓営農 の一層の発展を図り、日 本の農業を守り、次代を 担う若者が夢を持てる農 業づくりのため、一致団 結して闘うものである。 今後も、安定した農業 経営ができるよう、本大 会の下に決意表明する。

長の平嶋勝博全日本開拓 者連盟委員長が挨拶に立 ち、大会開催の経緯を説 明するとともに、国内農 畜産業の経営基盤が、貿 易交渉に加え、生産資材 の高止まりと消費回復の 鈍化も重なり、危機的状 況にあると危惧を示した 上で、「この大会を通じ、 開拓者が一致団結して、 一層強固になり、開拓営

業生産基盤の維持と食料 自給率向上を求めるとも (坏幸一岩手花平農協代 表理事組合長)の三議案 で、一括して上程され た。

それに対して、経営形 態別に、松山伸一さん青 森県・酪農、荒木和宏 さん(熊本県・肉牛)、 宮崎一明さん(栃木県・ 養豚)が代表して意見表 明を行った。それぞれが 厳しい経営環境を訴え、 支援策を要望した。その

三氏は、それぞれの立 場から、畜産・酪農情勢 について述べるとも 三氏は、それぞれの立 場から、畜産・酪農情勢 について述べるとも

後、採決に入り、三議案 の齋藤典子さんが決意表 明文を読み上げ、満場の 拍手をもって採択され た。

以上で議事日程はすべ て終了し、開拓者・開拓 組織のさらなる発展を期 して、齋藤さんの唱和で 「がんばろう」を力強く 三唱した。



引き続き、全国開拓青 年・女性研修会に移った。 講師に内閣官房参与の西 川公也氏(元農林水産大 臣)を招いての講演会。 西川氏は、「TPP等国 際貿易交渉について」と 題し、当面している情勢 を語った。 研修会終了後、大会運 営副委員長の平木勇全開 連代表理事会長が挨拶を 行い、閉会した。 大会翌日の15日、大会 プログラムを策定し、改 革を進めている中、農畜 産物を売る努力が必要で あると指摘。次に来年度 予算に言及し、「米の直

開拓営農発展 の足がかりに

全保障の見地からも安易 な妥結は容認できるもの ではありません。

このような中、国益を 守るために政府の厳しい 交渉姿勢が強く求められ

結して、一層強固になり、 開拓営農がさらに発展す る足がかりになることを

皆さんが、一致団 結して、一層強固になり、 開拓営農がさらに発展す る足がかりになることを

本紙は無償で提供しています。 ご希望の方はお知らせ下さい。

さきほど、青年部長の 期待し、大会運営委員長 の挨拶とさせていただきます。

本紙は無償で提供しています。 ご希望の方はお知らせ下さい。

本紙は無償で提供しています。 ご希望の方はお知らせ下さい。

全国開拓代表者大会における決議事項

第1号議案

開拓地営農を維持・発展させる件

農業経営を取り巻く国際環境や、国民の食生活が大きく変わる状況下にある中、われわれ開拓者、開拓地営農者は食の安全・安定供給という使命を果たしてきた。

国際貿易協定の締結は、わが国農業の生産基盤維持に大きな影響を及ぼす懸念され、われわれ開拓者、開拓地営農者は強い危機感を抱いている。

つきには、国際貿易協定の締結・発効にともなう国産農畜産物価格の下落等に対応した、所得補償制度の創設等を含めた適切で実効性のある経営安定対策を即時設定・実行することを国に対して強く要求する。

第2号議案

農業生産基盤の維持と食料自給率向上を求める件

開拓地営農者は、この大会を契機に一段と団結し、難局を乗り越える確固たる意思を確認する。

開拓地営農者は、食の安全・安定供給という社会的使命をまっとうしてきたが、特に肉用牛・酪農経営においては、最近の肉用素牛や乳用初妊牛の価格の高騰、生産資材備

第3号議案

開拓地営農者の維持と食料自給率向上を求める件

開拓地営農者は、食の安全・安定供給という社会的使命をまっとうしてきたが、特に肉用牛・酪農経営においては、最近の肉用素牛や乳用初妊牛の価格の高騰、生産資材備

開拓地営農者は、食の安全・安定供給という社会的使命をまっとうしてきたが、特に肉用牛・酪農経営においては、最近の肉用素牛や乳用初妊牛の価格の高騰、生産資材備



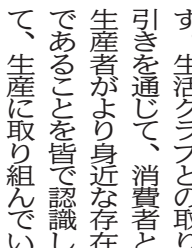
決議携え農水副大臣に要請 連盟委員長ら代表団

全国開拓代表者大会翌日の11月15日、平嶋大会委員長、塩島青年部長ほか大会運営委員ら代表団が農水省を訪れ、磯崎陽輔農林水産副大臣(写真)に大会決議を手渡し、実現を要請した。



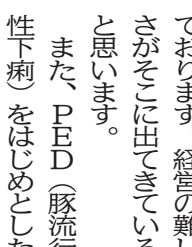
宮崎 一明さん

栃木県日光市で養豚を営んでいます。母豚規模約300頭、年間7200頭の肉豚を出荷しています。



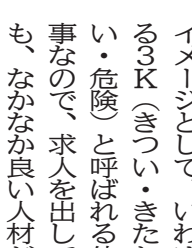
宮崎 一明さん

私が所属している栃木県開拓農協では、山形県の平田牧場と提携し、「平牧三元豚」を生産しています。また、生活クラブ生協に生産原価積み上げ方式で販売をしております。生活クラブとの取引を通じて、消費者と生産者がより身近な存在であることを皆で認識して、生産に取り組んでい



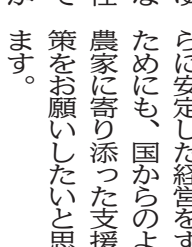
宮崎 一明さん

昨今の養豚業界は、配合飼料価格の高止まりと環境対策に対する生産費の高騰、施設コストのかかりの上昇など、非常に費用が大きいものとなっております。経営の難しさを感じてきています。また、PED(豚流行性下痢)をはじめとした



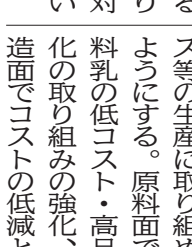
宮崎 一明さん

また、PED(豚流行性下痢)をはじめとした



宮崎 一明さん

また、PED(豚流行性下痢)をはじめとした



宮崎 一明さん

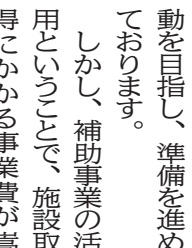
また、PED(豚流行性下痢)をはじめとした

全国開拓代表者大会における意見表明(要旨)



松山伸一さん

全国的に酪農の担い手の高齢化と後継者不足といった状況があり、私の住む青森県においても、近年は毎年10戸程度が離



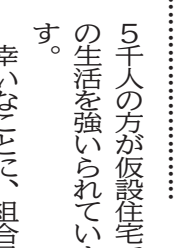
松山伸一さん

農していません。このままでは県内多数の酪農地帯が崩壊する恐れがあることに危機感を持った私を含め数人の酪農家等が、



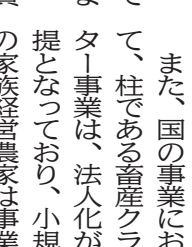
松山伸一さん

しかし、これでは国内の限られた頭数が単に移動しただけであり、根本的な頭数増加には結びついていない。



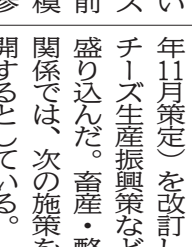
松山伸一さん

熊本県で、肉用牛の肥育事業を営んでいます。現在、両親と交雑種牛去勢を約500頭肥育しています。



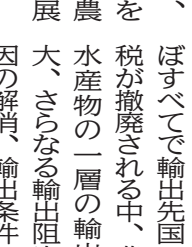
松山伸一さん

熊本県で、肉用牛の肥育事業を営んでいます。現在、両親と交雑種牛去勢を約500頭肥育しています。



松山伸一さん

熊本県で、肉用牛の肥育事業を営んでいます。現在、両親と交雑種牛去勢を約500頭肥育しています。



松山伸一さん

熊本県で、肉用牛の肥育事業を営んでいます。現在、両親と交雑種牛去勢を約500頭肥育しています。

新たなTPP大綱決定

チーズの競争力強化に重点

政府は11月24日、TPP等総合対策本部の会合を開き、農業支援を中心とする新たな「総合的なTPP等関連政策大綱」を決定した。日欧EPA大枠合意及びTPP11大筋合意を受け、同大綱(15年11月策定)を改訂し、チーズ生産振興策などを盛り込んだ。畜産・酪農関係では、次の施策を展開するとしている。

1 強い農林水産業の構築(体質強化対策) 新市場開拓の推進とともに、重要品目の再生産が可能となるよう、強い農林水産業をつくりあげるため、万全の施策を講じる。

2 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

3 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

4 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

5 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

6 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

7 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

8 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

9 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

10 経営安定 協定発効に合わせ、経営安定対策の充実等の措置を講ずる。

入植の苦勞を語り継ぐ

「岩手戦後開拓物語」開催 開拓協会 岩手県

(一社)岩手県開拓振興協会(野原修一理事長)は11月16日、盛岡市の「ホテル大観」で、公益事業として企画した「第6回岩手戦後開拓物語」を開催した。開拓一・二世から苦難に満ちた開拓体験を語り継ぐというもので、県内開拓者・関係者のほか、一般人ら過去最多の100名(うち一般人71名)が参加し、熱心に聞き入った。



今年の「語り部」は、滝沢市柳沢・柳沢上郷開拓の青木輝夫さん(開拓一世・84歳)と同市鵜飼・花平開拓の布川英子さん(開拓二世・75歳)。青木さんは樺太(現・ロシア連邦サハリン州)、布川さんは満州(現・空襲を受け、山に避難。

冒頭、野原理事長が主催者挨拶を行い、「戦後開拓事業開始から70余年が経ち、われわれの体験を伝えていくことは大変

大事なこと。開拓地でも畜産農家が減少している中、お一人の話を聞き、前途を考えていきたく、女性の語り部は初。



青木輝夫さん

アが主張する国有企業の優遇禁止の凍結や、カナダが求めた文化産業の著作物保護の例外扱い要求など4項目は未解決のまま残されている。日本側は「カナダがあのよ

雑木を伐採、手作業で開墾 1933(昭和8)年、樺太恵須取郡鵜飼村生まれ。父は長野県出身で、大正の初めに樺太に渡り、開拓者として手作業で開墾した。当時は、開拓者が樺太に多数入ったよう

ただ、終戦時、私たちはロシア兵に抵抗しなかつたこともあり、比較的平穏な地帯でした。4年留まり、ロシア人にジャガイモや麦類の作付けを教えたりました。食料増産のため、日本人の農家は大事にされました。49(昭和24)年7月、長野県にいったん引き揚げました。すでに滝沢村(市)への分村計画が決まっていた。翌月、柳沢に両親・兄妹と入植。入植者は若者を中心に25戸で、3年間は共同生活で



布川英子さん

た。長年にわたる経営で、大きな失敗はありませんでした。毎日の生乳出荷による現金収入があり、農業の中で酪農は良いと思います。毎日、畑仕事をしました。皆、そういうことをしていたから、苦勞を我慢できたと思います。休まずに学校に行けたのは、兄が学校を卒業して家働きの1年間だけでした。電気が入ったのは62(昭和37)年。翌年、酪農家と結婚。乳牛は手搾りで、牧草も手で刈り、乾かしました。07年、中国へ夢に行きました。何も寂しい所、弟のことを思うと帰るには涙が止まりませんでした。

知っておきたい話

第63回

「TPP11」の増殖

東京大学教授 鈴木宣弘氏

TPP11の「偽装合意」(上)



米国民が否定したTPP(環太平洋経済連携協定)を「TPPプラス」(TPP以上の自由貿易協定)にして、日欧EPA(経済連携協定)の「大枠合意」したかと思えば、今度は、米国抜きでTPP11の「偽装合意」を主導し、日本政府は「TPP11」の強引な増殖にまい進している。

TPP11反対者を「美体のない恐怖を振りまく」「TPPおぼけ」と批判した人々の「TPP11」推進、これこそ「TPPおぼけ」である。米国民の圧倒的多数がTPP

Pを否定し、日本を含む多くの国の市民の声も同じだ。大多数の市民の声とグローバル企業と結託した政治家の思惑とが極度に乖離した政治状況は各国とも何ら改善されていない。その異常さをTPP11の推進を目の当たりにして痛切に感じる。

「1対99」と言われるが、政治は1対の「お友達」の利益のために進められる。99の声は無視され、国民の声と政治は必然的に乖離する。日本が最も極端だ。しかも、内政での行き詰まりから国民の目をそらすために外交成果を急ぐという常套手段で、交渉が決裂した項目は外して、合意できた部分だけを「大枠合意」(日欧EPA)だ、「大筋合意」(TPP11)だと見せかける姑息で強引な手段に

ベトナムとの閣僚会合で共同議長の日が2017年11月に大筋合意したと発表後、カナダの貿易相が合意していないと否定し、カナダ首相も安倍総理による何時間もの説得にも応じず、首脳会合による合意確認はお流れになった。このことから、日本が主導して強引に合意を装った「偽装合意」の印象は否めない。

閣僚声明文のとおり、agreed on the core elements(核となる項目について合意した)が、米国がTPPに復帰したら「解決する前提で、元のTPP12の協定文から20項目を凍結した上、マレーシ

アが主張する国有企業の優遇禁止の凍結や、カナダが求めた文化産業の著作物保護の例外扱い要求など4項目は未解決のまま残されている。日本側は「カナダがあのよ

「スネ夫」が「ジャイアン」に 強引に合意したとの発表を急ぐ日本の姿勢は、内政の行で、アジアの国々を中心にいき詰まりを外交成果で覆い隠すという「常套手段」の側面が、既成事実化を急い

アが主張する国有企業の優遇禁止の凍結や、カナダが求めた文化産業の著作物保護の例外扱い要求など4項目は未解決のまま残されている。日本側は「カナダがあのよ

「玉虫色」の条文が「同床異夢」の解釈を可能にしていたことなど、解釈も含めて条文の確定作業が残っていた。17年7月の日欧EPAの「大枠合意」は agreement in principleで、ISDS(投資家対国家紛争解決) 条項を参加し、日本がアジアとのFTA交渉で相手国を恫喝する

「スネ夫」が「ジャイアン」に 強引に合意したとの発表を急ぐ日本の姿勢は、内政の行で、アジアの国々を中心にいき詰まりを外交成果で覆い隠すという「常套手段」の側面が、既成事実化を急い

「スネ夫」が「ジャイアン」に 強引に合意したとの発表を急ぐ日本の姿勢は、内政の行で、アジアの国々を中心にいき詰まりを外交成果で覆い隠すという「常套手段」の側面が、既成事実化を急い

「スネ夫」が「ジャイアン」に 強引に合意したとの発表を急ぐ日本の姿勢は、内政の行で、アジアの国々を中心にいき詰まりを外交成果で覆い隠すという「常套手段」の側面が、既成事実化を急い

「スネ夫」が「ジャイアン」に 強引に合意したとの発表を急ぐ日本の姿勢は、内政の行で、アジアの国々を中心にいき詰まりを外交成果で覆い隠すという「常套手段」の側面が、既成事実化を急い

「スネ夫」が「ジャイアン」に 強引に合意したとの発表を急ぐ日本の姿勢は、内政の行で、アジアの国々を中心にいき詰まりを外交成果で覆い隠すという「常套手段」の側面が、既成事実化を急い

共進会の結果

11月に開催された開拓組織による枝肉共進会の結果は次のとおり。

- 福岡県畜産農協枝肉共進会(福岡市食肉市場)
 - 最優秀賞 野田貴文 26・5カ月齢の交雑種 去勢、枝重577・2kg、BMS No.9、格付A5、種雄牛「藤平茂」。
 - 最優秀賞 中山 工
- 佐賀開拓びより牛・開拓豚枝肉共進会(佐賀県畜産公社)
 - 最優秀知事賞 重松英利 27・4カ月齢の黒毛和種去勢、枝重503・0kg、BMS No.10、格付A5、父安福久(母の父平茂)「祖母の父」福栄。
 - 最優秀賞 中山 工
- 肉牛部門
 - 最優秀知事賞 重松英利 27・4カ月齢の黒毛和種去勢、枝重503・0kg、BMS No.10、格付A5、父安福久(母の父平茂)「祖母の父」福栄。
 - 最優秀賞 中山 工

表 売上と所得・利益の対前年比較 (16年農業経営動向分析)

Table with columns for '個人経営' (Individual Business) and '法人経営' (Corporate Business). It details sales and profit trends for various agricultural products like rice, fruits, and livestock across different prefectures.

Table with columns for '個人経営' (Individual Business) and '法人経営' (Corporate Business). It details sales and profit trends for various agricultural products like rice, fruits, and livestock across different prefectures.

注1) 経営規模、売上高、農家所得及び経常利益は経営部門毎の平均値を記載
注2) 増減率はラウンドの関係で数値が合わない場合がある

茶 4年ぶり増収増益に

16年 農業経営動向分析

日本公庫

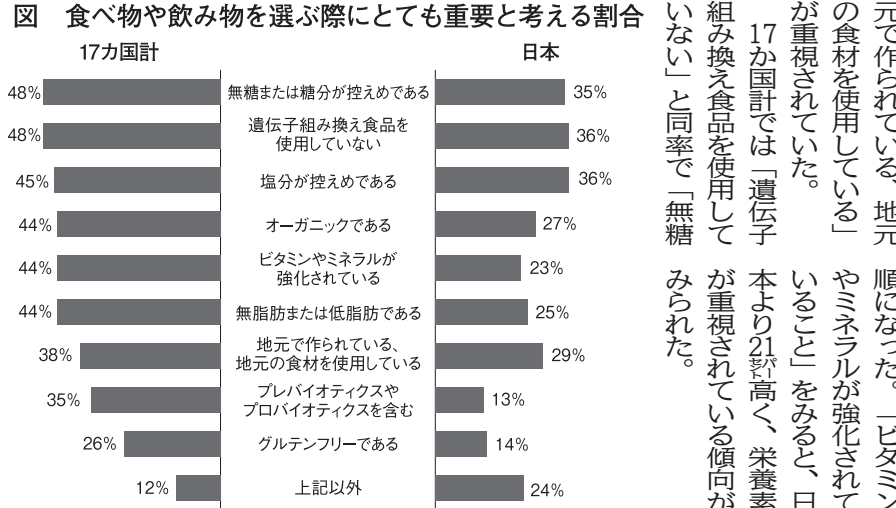
【日本政策金融公庫は】を上回った。販売価格低... このほど、同公庫の融資... 迷による収益低迷が続い...

「16年農業経営動向分析」... 耕種部門のうち稲作... は、前年産米の収量が好... 天により15年を上回った...

り5・9割増。都府県で... は、天候不順時に販売価... 格の上昇が影響し、増収... 増益となった。法人経営...

「遺伝子組み換えでない」最多... 17カ国食べ物等の重視点調査... 物を選ぶ際の重視点のク...

「無糖または糖分が控えめである」35割と続いた。このほか、オーガニック...



畜産物価格の下落懸念... 日欧EPAの影響分析... 農水省は11月2日、日欧EPAによる国内の農...

量販店等で国産牛肉増加の見通し... 17年度 下半期食肉販売動向調査... 農畜産業振興機構はこ...

畜産物価格の下落懸念... 日欧EPAの影響分析... 茶、小豆、鶏肉など14... 品目は、最も影響が小さ...

長野県野菜花き試験場・佐久支場

キャベツ 寒冷地でも6月収穫
マルチ・深植・べたがけ組み合わせ

キャベツの早春栽培は寒冷地で行う場合、凍害や干ばつ害などの影響を受けやすく、不安定である。寒冷地でも、収量が安定するような技術が望まれている。

長野県野菜花き試験場・佐久支場は、標高700m以上の寒冷地での寒玉系キャベツ生産における作期の前進を検討。全面マルチ栽培・深植定植・不織布べたがけ被覆を組み合わせ、2月下旬に播種、3月下旬～4月上旬に定植することで端境期の6月に安定して収穫が可能となることを明らかにした。

試験1

県東部地域(標高800m)で13～15年にマルチ栽培、定植深さ、べたがけ資材による生育の違いを検討した。

マルチ栽培は、各年、白黒マルチ及び黒マルチともに「無し」の場合よりも生育が良く、高収量が得られた。

14年は、定植の深さを本葉がマルチ下まで埋没する深さにすると干ばつ時に枯死しにくく、収量も高かった(表

1)。

15年は、べたがけ資材の種類(ポリエチレン長繊維、ポリビニルアルコール割繊維、ポリプロピレン長繊維)によって生育収量に差がみられた(128穴セルトレイ15年2月下旬播種、4月上旬定植、6月中旬収穫、3品種供試)。資材の保温効果に差があるため、ほ場の条件により適するものが異なると考えられた。

被覆方法(べたがけ、トンネル)によって、生育や収量に差はほとんどみられなかったが、16年に収穫間際までべたがけを行ったところ、生育がやや抑制された(128穴セルトレイ2月下旬播種、3月下旬定植、6月中旬収穫、「信州868」供試)。

試験2

県西部地域(標高700m)で同様に栽培方法などを検討した。

育苗セルの大きさ(72穴、128穴)で、収穫時期に差はみられなかったものの、1球重は大きいセルの方がやや重

表1 マルチ有無、定植深さによる生育特性(14年、野菜花き試験場・佐久支場)

供試品種	マルチ	定植深さ	収穫調査(6/23調査)					
			枯死株率(%) (4/24調査)	全重(g)	球重(g)	球高(cm)	球径(cm)	最大葉長(cm)
さつき女王	白黒マルチ	普通	0.0	2,539	1,084	10.9	18.3	39.1
		深植	0.0	2,819	1,484	11.5	18.9	41.2
	無	41.7	—	—	—	—	—	
信州868	白黒マルチ	普通	0.0	2,125	952	11.6	15.4	39.9
		深植	0.0	2,851	1,522	13.4	18.0	41.9
	無	46.7	—	—	—	—	—	
			1.7	2,333	876	11.5	15.9	40.9

試験場所：小諸北大井現地圃場
耕種概要：14年3月7日播種(128穴セルトレイ)、4月9日定植(1区20株2反復)、6月24日収穫調査(1区10株2反復)。施肥量 N・P₂O₅・K₂O=25・25・20kg/10a 畦幅45cm、株間35cm、ポリエチレン長繊維不織布べたがけ(定植直後～5月15日)

かった。

マルチとべたがけ(ポリビニルアルコール割繊維)を組み合わせると、欠株がまったく生じなかった(表2)。

マルチをしても、べたがけ無しでは欠株が発生した。無マルチでも、べたがけを行えば凍害が抑えられた。

試験1、2より、全面マルチと深植による干ばつ害などの抑制、不織布べたがけ被覆の保温効果による初期生育の安定化が可能となることが示唆された。

同技術に適した品種は、寒玉系品種「さつき女王」「信州868」とされた。被覆期間は定植直後～5月中旬の結球

表2 キャベツ栽培法と凍害による枯死株の発生程度(15年、野菜花き試験場)

育苗方法	マルチ	べたがけ	枯死株率(%)
72穴セル	黒マルチ	有	0
	無	有	3
	無	無	85
128穴セル	黒マルチ	有	0
	無	有	4
	黒マルチ	無	25
			35

試験場所：野菜花き試験場圃場
耕種概要 品種：「さつき女王」
播種：1月26日(72穴)、2月10日(128穴)
定植：3月20日(1区20～24株、定植深さ：普通 3反復)
調査日：5月1日(全株調査)
施肥量 N・P₂O₅・K₂O=25・20・16kg/10a
畦幅45cm、株間40cm
べたがけ資材：ポリビニルアルコール割繊維不織布

開始頃まで。ただし、べたがけ資材の種類によって、光の透過性や保水性などに差があるため、ほ場の条件により選定する。

同支場は、利用上の注意点として2月下旬より早期に播種をしても収穫時期はあまり早まらないため、定植期から逆算して適苗定植となるよう播種時期を決定することを挙げている。

・感染した枝葉は伝染源となるため、葉剤防除や枝の切り戻しを行う。切り口には、チオファネートメチルを主成分とする保護剤を塗布して、菌の侵入を防ぐ。主幹部から菌液が漏出するなど発病が重い場合は、台木部分まで伐採する。

・土中では菌が生存しないため、切除した枝葉は、発生ほ場内で埋設または焼却するなど適切に処分する。

・雨滴や強風によって菌が飛散するので、せん定などの管理作業はなるべく晴天時に行う。風の強い地域では、防風ネットなどを設置する。

作業器具の消毒徹底し防除

キウイフルーツ かいよう病 17年13都県で確認

キウイフルーツかいよう病は、キウイの枝幹、新梢、葉、つぼみに発生する。特に枝幹では2月頃から症状がみられる。葉柄痕、傷口などから菌を含む白濁または赤色の樹液が漏出した後に乾いて褐変する。

その中で病原性が強く、樹が枯死することもある同病 Psa3 系統が、17年(1～11月)は茨城や熊本など13都県で確認されている。同系統は、他系統で4月頃に葉でみられる褐色斑点の周囲の淡い黄色帯(ハロー)がはっきりしない場合がある。また、緑色品種より黄色品種で被害が大きい。

感染樹の枝葉などから漏出した細菌液が、風雨によって飛散し、枝葉の傷口、気孔などに付着することで感染。接木や作業器具などを介して他の樹へ伝染する。

根絶が困難なため、各県の防除ポイントから紹介する。

・作業器具や長靴などの洗浄及び消毒を徹底し、菌を持ち込まないように注意。ほ場内への無用な人の立ち入りは制限する。

・ほ場の見回りを欠かさず、樹液漏出、芽枯れ、葉の斑点などの初発を見逃さない。

酸性土壌でよく生育するため、ネギ生育期の土寄せ時に石灰資材などを施用し、土壌をアルカリ性になるよう pH7.0以上に矯正する。

ネギ収穫後、エン麦やマルチ麦などの緑肥作物を間作することで、次作の発生リスクが軽減される。

菌核は土中で数年以上生存するため、発病株は早めに抜き取り、残さを土に混ぜず、ほ場外で適切に処分する。

発生ほ場では、他のほ場へ菌の持ち込みを防止するため、作業機械の洗浄を行う。

酸性土壌の矯正で予防
ネギ黒腐菌核病

ネギ黒腐菌核病は、生育不良や地下部の腐敗、枯死を起こし、全国のネギの産地で重要病害となっている。秋～春の低温期で発生が多く、他のネギ属(タマネギ、ニンニク、ニラなど)でもみられる。

感染株に形成された菌核(0.2～1.0mmの微小な黒色ゴマ粒状)が、作業機械や風雨によって運ばれ伝染する。

ヤガ・ヨトウガなど 抵抗性発現遅らせる可能性
害虫世代内に複数薬剤施用で

同じ薬剤を連続使用すると、抵抗性をもった害虫が出現し、10～20年のうちに効果が低下する。新剤の開発には時間とコストがかかるため、同じものを長く効果的に利用できる技術が必要とされている。

抵抗性害虫の発現を抑えるために、作用の異なる複数の薬剤を散布する方法が用いられる。

農研機構は、害虫世代毎に異なるものを散布する「世代間交互施用」よりも、世代内で異なるものを散布する「世代内施用」の方が害虫の抵抗性発現を遅らせられる場合が多いことを明らかにした。

1種類の害虫に限定せず、実際の農業現場のように様々な害虫が関与する露地畑作・水田を想定。浸透移行性(標的の害虫に直接かからなくても作用する性質)の有無や施用時期、害虫の種類などで場合分けし、

コンピュータで計算を行った。その結果、ヤガやヨトウガなどのチョウ目では「世代内」が効果的に抵抗性発達を遅らせることができることが示された。

ハムシやゾウムシなどのコウチュウ目では、浸透移行性薬剤を使用する場合に限り「世代間」の方が効果的だったものの、非浸透移行性薬剤の使用時には、想定した全種で「世代内」が有効であることが示唆された。

実際のほ場では、非浸透移行性薬剤の打ち漏らしや周辺環境から新たに侵入するため、直ちに感受性害虫がいなくなるわけではない。2剤に対して同時に抵抗性をもった害虫は極めて低頻度でしか出現しないとしている。

同機構は今後、実験室内などで実際に有効であるかを検証し、どのように既存の防除法に組み込めるかについて検討する予定としている。

三重県畜産研究所

乳牛 簡易装着餌寄せ装置考案 鋼材・古タイヤで作製

フリーストール牛舎では TMR 飼料を給与後、再度餌寄せを行う必要があるが、専用機の導入または人力での作業となるため、低コストで省力的な方法が求められている。

三重県畜産研究所は、フリーストール牛舎用の一般的な鋼材と古タイヤで作製できる簡易装着餌寄せ装置を考案した。

同装置は、一般の鋼材と使用しなくなった古タイヤ(直径730mm、幅296mm)を用いて作製(図)。大きさは、全幅2322mm、全高1010mm、奥行き1000mm、重量216kg。鋼材などを持ち上げたりする機器、金属を加工するカッターや溶接機があれば1人で作製できる。

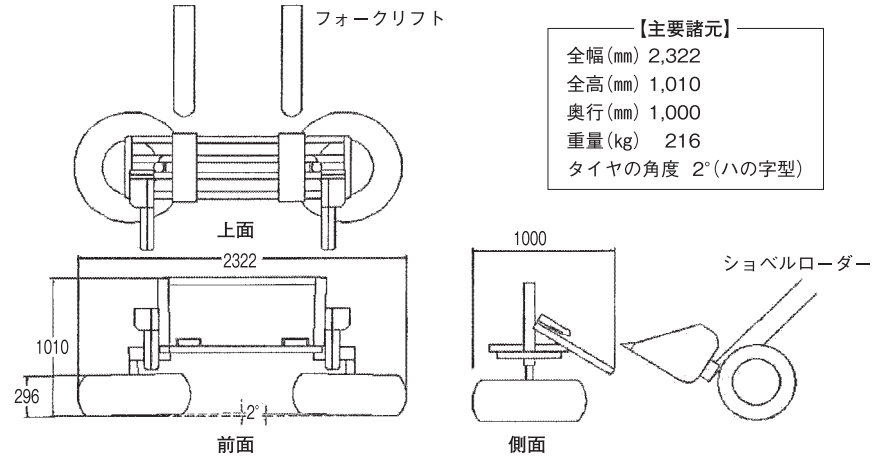
構造は、タイヤを地面から2度斜めに角度をつけることで、タイヤが一定

の方向に回転するため、その回転を利用して餌寄せする仕組みになっている。

同装置の取り付けは、作業機へ乗り降りしなしで可能。さらに、ワンタッチになっているため、1人で装着可能。既存のショベルローダーやフォークリフトに装着するタイプなので、作業機を効率良く利用できる。

操作方法は、作業機の前方に装着し、前進直線作業のみで餌寄せが可能。装着の左右にタイヤを取り付けているため、往復作業にも対応している。飼槽に接する部分がゴム製のタイヤであるため、ショベルローダーの金属製のバケットに比べ、飼槽表面の損傷(すり減りや剥がれ)などを低減することができる。

図 簡易装着餌寄せ装置の概要図及び主要諸元



同装置を実証した結果、着脱時間はショベルローダー使用時で着：9.3秒、脱：5.9秒。フォークリフト使用時で着：8.8秒、脱：5.8秒となり、短時間で着脱ができた。

また、同所乳牛舎の飼槽(長さ32m、幅1m)の作業時間について同装置を用いて計測すると、ショベルローダー装着時で約42秒、フォークリフト装着時で約45秒となった。一方、従来のスコップとコートブラシ(幅180cm)を用いた人力作業では約280秒、ショベルロ

ーダーのバケット操作で約180秒掛かり、作業の省力化を図ることができた。

同装置は、補助作業者の必要もなく、機械作業に不慣れな人でも十分に対応できる。

なお、コストは鋼材費が約3万円。鋼材店などで購入できるものを使用した。また、タイヤの重さに加えて同装置全体の重量に耐えられるものであれば材質は問わない。古タイヤは、リサイクルのため無料だった。

初産牛乾物摂取量^{など}見直し

新たな日本飼養標準

(公社)中央畜産会はこのほど、日本飼養標準乳牛(17年版)*を発行した。06年版発行以来、11年ぶりの改訂。現行飼養標準を最新の国内データに基づいて検証し、海外情報も加えて新しい視点を提示した。既存の事項についても解説を充実させた。

第1～9章で構成されている。その中の改訂のポイントを紹介する。

第1章は、初産牛の乾物摂取量について、分娩後から泌乳11週目までの乾物摂取量(DMI)推定の補正式を見直した。06年版では、分娩後3週齢までのDMI推定値が実際より高く算定されることから、新たな収集データを基に変更を行った。また、水溶性ビタミンの移動については、ビタミンB群と

日本飼養標準・乳牛2017年版の章構成

序章	飼養標準改訂の基本方針及び本飼養標準の構成
1章	栄養素の単位と要求量
2章	養分要求量(I)
3章	養分要求量(II)
4章	養分要求量に影響する要因と飼養上注意すべき事項
5章	飼料給与上注意すべき事項
6章	泌乳曲線の平準化
7章	群飼と給与飼料中の養分変動
8章	飼養標準の使い方と注意すべき事項
9章	養分要求量の算定式

して一括だったが、乳牛に関する見直しに基づき、ビタミンの種類を分けて内容を充実した。

第5章は、飼料資源について国産濃厚飼料として、新たに飼料用米、イアコーンの可消化養分総量や圧ペントウモロコシの代替として利用できること

を記述した。飼料設計に必要な粗たん白質の第一胃内分解性や食品製造副産物の焼酎粕特性も追加。稲発酵粗飼料(稲WCS)は、子実割合が極めて低い高糖分の品種「たちすずか」「たちあやか」の特性や給与指標も示した。

また、ふん尿排せつ及びメタン放出の低減と栄養管理について、初産牛のふん尿量及び窒素排せつ量のデータを収集・分析し、変更を行った。メタン放出の低減では、パリ協定やIPCC(気候変動に関する研究成果をまとめた問題解決に必要な政策)報告書などの情報も記載した。

第6章は、ピーク乳量が高めるよりも乳量を持続させる「泌乳曲線の平準化」への関心の高まりから、育種改良の重点目標の一つとして設定されている泌乳持続性を記述。泌乳持続性の改良が長命性、乳房炎の発生抑制に寄与することを説明。高能力牛は、高泌乳化によりDMIが多くなる一方で、飼料

の消化率が低下し飼料効率の改善効果が打ち消されるため、平準化することで泌乳中後期乳量の改善につながる優位性を記述。また、分娩間隔と乾乳期間との関係では、泌乳持続性の高い乳牛で分娩間隔の延長が生じても搾乳期間を延長ができ、乾乳期間の延長による経済的デメリットが小さいことを説明している。

添付のCD-ROM(養分要求量・飼料診断プログラム)は、Windows7、8及び10で利用できるようプログラムを更新した。

*飼養標準とは、家畜、家きんの飼料のカロリーや栄養バランスなど、必要な栄養素量を生産のステージごとに提示したもの。生産効率の改善を図るための基礎となる。

搾乳牛1頭当たり生産費微増 16年度牛乳生産費

農水省がこのほど公表した「16年度牛乳生産費」によると、前年度より搾乳牛1頭当たりの全算入生産費が増加し、生乳100kg当たり(乳脂肪分3.5%換算乳量)の全算入生産費は減少した。

搾乳牛通年換算1頭当たりの全算入生産費は、73万8314円。搾乳牛価格の上昇により、乳牛償却費が増加したことなどで、前年度比0.2%増となった。

生乳100kg当たり(同)の全算入生産費は、7787円。1頭当たりの搾乳量が増加したことにより、前年度比0.3%減となった。

(一社)日本SPF(特定の病気をもたない)豚協会は、都内で「SPF豚セミナー」を開催した。

16年度同協会の認定CM(商業母豚から生産)農場(178農場)生産成績年次報告によると、一貫農場(109農場)の1腹当たりの哺乳開始頭数の平均が14年度以降増加傾向となっている。

一貫農場の総合生産指数(基準100%)の平均は、107.40と抗菌剤費用が多くなったものの、1母豚当たり年間肉豚出荷頭数が増加したことから、前

年度より0.47%微増した。

年間肉豚出荷頭数(1母豚当たり)は、基準値21.35頭に対して、平均が22.14頭と0.79頭増えている。

哺乳開始頭数(1腹当たり)をみる

養豚 哺乳開始頭数が増加傾向

16年度SPF認定農場生産成績

と、平均11.18頭となっており、14年度以降頭数が増えてきている。年間哺乳開始頭数(1母豚当たり)も平均26.49頭と年々増加してきている。

年間離乳子豚頭数(1母豚当たり)

をみると、平均が24.28頭と14年度のPEDの影響から回復し、増加してきているものの、肉豚出荷率(離乳から出荷する)の平均は、92.77%と低下している。

出荷豚肉1頭当たりの抗菌剤費用は、平均209円と10年度以降減少しつつ上がってきている。ワクチン費用は、平均783円と調査開始年度(04年度)と比べると倍以上となっている。

出荷日令は、平均180日で調査開始年度と比べると6日短縮、出荷体重は、平均114.26kgで1.20kg増加した。

(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場

牧草・トウモロコシサイレージ主体 TMR 給与

交雑去勢 枝肉成績同等で飼料費約2割減

濃厚飼料は、原料の多くを輸入に依存しているため、価格が不安定である。安定した経営のためには、国産飼料を中心とした低コストの肥育方法が必要とされる。

(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場は、交雑種去勢牛に牧草サイレージ(GS)及びトウモロコシサイレージ(CS)主体TMRの給与試験を行い、慣行飼養と枝肉成績が同等かつ、TDN自給率の向上と飼料費の低減が可能であることを明らかにした。

試験は、北海道の交雑種一貫農家で

行った。試験区・対照区(慣行飼養)を設置し、それぞれ2群20頭供試した。

試験区には、育成期(5~8ヵ月齢)にGS主体TMR、肥育期(9~25ヵ月齢)にCS主体TMRを給与した。GSは、対照区の粗飼料給与割合と同じ(乾物)38%を混合、CP含量も対照区と同等となるよう配合飼料と圧ペントウモロコシで調整した。CS給与割合は、前期(9~14ヵ月齢)64%、後期(15~25ヵ月齢)40%とし、CP、NDF、でん粉、TDN含量を対照区の給与水準と同じになるよう配合飼料と大豆粕で調

整を行った。

対照区には、粗飼料・濃厚飼料を分離給与した。粗飼料は、育成期に乾草、肥育期にイタリアンライグラスストローを給与。肥育期の粗飼料給与割合は、前期26%、後期15%とした。

試験の結果、対照区と同等の枝肉成績が得られた(表)。枝肉重量は、対照区が試験区を上回ったものの有意差はなかった。皮下脂肪厚及びBFS No.は、両区で同じ値だった。また、血中βカロテン濃度は肥育開始後速やかに低下し、ビタミンA濃度も試験区が60IU/dlまで低下した。

1頭当たりの飼料費は、全期間通算で約2割の8.2万円が削減された。さらに、TDN自給率が41.8%と約3倍に増加した。

以上により、GS・CSは栄養価の高

表 交雑種におけるサイレージ給与効果

Table with 3 columns: 項目, 対照区, 試験区. Rows include 粗飼料割合(%DM), 育成期, 肥育前期, 肥育後期, 育成開始体重(kg), 肥育終了体重(kg), 枝肉重量(kg), 胸最長筋面積(cm²), ばらの厚さ(cm), 皮下脂肪厚(cm), BMS No., BFS No., 格付頭数, TDN自給率(%), 飼料費(万円).

※(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場の資料を基に作成。正常出荷牛のみ。

い国産飼料として利用可能で、濃厚飼料削減による低コスト化が期待できることが示された。

素牛価格上昇の影響で増加

16年度 肉用牛・肥育豚生産費

農水省はこのほど、「16年度肉用牛・肥育豚生産費」を公表した。1頭当たり資本利子・地代全額算入生産費(以下、全算入生産費)は、肥育豚で前年度に比べて減少したものの、肉用牛はほとんどの品種で増加した。素牛価格上昇の影響が大きく、乳用牛・繁殖牛の増頭が求められる。

4183円(同35.8%増)と大幅に増加したことなどが影響し、全算入生産費は増加した。

1頭当たり販売価格は、49万7881円(同3.1%増)と上昇した。1経営体当たり販売頭数が114.4頭(8.8%減)、1頭当たり投下労働時間は16.65時間(同1.0%増)となった。

乳用雄肥育牛

1頭当たり全算入生産費は、50万5244円(前年度比8.1%増)となった。素牛の価格上昇により、素畜費が20万

交雑種肥育牛

1頭当たり全算入生産費は、76万9384円(前年度比2.3%増)となった。素牛の価格上昇により、素畜費が37万

資材は堆肥化まで視野に

おが粉に替わる敷料の利用

(公社)中央畜産会はこのほど、「おが粉代替敷料に関する技術指導研修会」を都内で開催した。

近年敷料が、おが粉不足や価格高騰により入手困難となっている現状となっている。代替敷料として利用可能と考えられている資材について専門家が情報提供を行った。

(一財)畜産環境整備機構の研究統括監・道宗直昭氏は、地域で利用できるような資材の活用が望ましいとした。また、コストや利用のしやすさだけでなく、堆肥化まで視野に入れるべきと指摘した上で、戻し堆肥やもみ殻などの特徴を説明した。

戻し堆肥は、吸水性が比較的高いものの、乾燥しすぎると粉状になりやすいため、作業や家畜の呼吸器に影響を及ぼす点に注意が必要。水分は20~40%が適当。有機物の分解により粒子

が細くなるため、繰り返しの使用は3回程度が望ましい。保管の際、高く積むと自然発火する危険があるため、2.5mまでを目安とする。

もみ殻は、クッション性や通気性が良い一方で、固く、水をはじく性質があるため、吸水性は良くない。粉碎や蒸気圧ペ加工をすることで、吸水・保水性が高まる。供給が秋に集中するので、十分な保管庫が必要。保管する際の注意点として、雨水に濡れたまま長時間放置することによるカビの発生、保管庫への野生動物の侵入が挙げられる。

なお、同会は、各資材の特徴や活用事例などをまとめた「おが粉代替敷料利活用マニュアル」を今月からホームページ上で公開している。(http://jliadb.lin.gr.jp/kankyokankyo3.pdf)

16年度 肉用牛・肥育豚生産費

Table with 6 columns: 区分, 単位, 乳用雄肥育牛, 交雑種肥育牛, 肉専用種子牛, 肉専用種去勢若齢肥育牛, 肥育豚. Rows include 生産費(1頭当たり), 物財費, うち素畜費, 飼料費, 労働費, 費用合計, 全算入生産費, 対前年度増減率, 物財費, うち素畜費, 飼料費, 労働費, 費用合計, 全算入生産費.

※農水省集計データを基に作成。

1349円(同13.7%増)と増加したことなどが影響し、全算入生産費は増加した。

1頭当たり販売価格は、82万8635円(同0.6%増)と微増した。1経営体当たり販売頭数が83.2頭(同3.4%増)、1頭当たり投下労働時間は25.36時間(同1.7%減)となった。

肉専用種子牛

1頭当たり全算入生産費は、60万4734円(前年度比2.4%増)となった。労働の長時間化にともない、労働費が6.2%増加したことにより、全算入生産費は増加した。

1頭当たり販売価格は、78万4652円(同17.3%増)と著しい高騰が続く。1経営体当たり販売頭数が11.1頭(前年同数)、1頭当たり投下労働時間は128.98時間(同4.8%増)となった。

肉専用種去勢若齢肥育牛

1頭当たり全算入生産費は、114万

6901円(前年度比7.1%増)となった。素牛の価格上昇により、素畜費が66万9604円(4.4%増)と増加したことなどが影響し、全算入生産費は増加した。

1頭当たり販売価格は131万3694円(同8.8%増)と上昇した。1経営体当たり販売頭数が39.3頭(同0.3%減)、1頭当たり投下労働時間は52.07時間(同0.7%増)だった。

肥育豚

1頭当たり全算入生産費は、3万2089円(前年度比5.1%減)となった。飼料価格の低下に起因して、飼料費が2万255円(同8.7%減)と減少したことなどにより、全算入生産費は減少した。

1頭当たり販売価格は3万7207円(同2.0%減)と減少した。1経営体当たり販売頭数が1564.2頭(同2.2%増)、1頭当たり投下労働時間は2.72時間(同3.0%増)となった。

黒毛子牛、50万頭超え 16年度 牛出生頭数

(独)家畜改良センターはこのほど、全国の16年度牛出生頭数を公表した。全体で6657頭(0.5%)減の123万9339頭と、ほぼ前年度並みだった。

黒毛和種は、前年度より1万769頭

(2.2%)増の50万2066頭。2年連続で増加し、50万頭超えは4年ぶり。

乳用種は、前年度より1万3867頭(2.9%)減の45万6640頭。4年連続の減少となった。

交雑種は、前年度より3771頭(1.4%)減の26万3895頭。2年ぶりの減少となった。

畜産物需給見通し

牛枝肉

鍋物需要と年末年始手当てで、引き合い強い

11月は需要期入りで、和牛を中心に相場が上伸した。鍋物需要が本格化する中、牛全体の出荷頭数が前年同月を下回ったことが反映した。肉質による価格差が大きい状況は続いている。

例年より気温の低下が早く、今後も鍋物需要の高まりが期待され、強含みの推移が予想される。

【乳去勢】11月の大阪市場乳去勢牛C2の税込み平均枝肉単価は、1020円(前年同月比100%)となった。前月に比べ44円上げた(B2は1頭のみ、3等級は上場なし)。

農畜産業振興機構は、12月の乳牛(雌含む)の全国出荷頭数を2万9000頭(同99%)と、減少が継続すると見込んでいる。12月の輸入量は総量で4万5100t(同100%)を予測。うち冷蔵品は、米国産の輸入量の増加が引き続き見込まれることから、前年同月を上回る2万3500t(同102%)を、冷凍品は在庫を調整する動きもみられ、前年同月をやや下回る2万1700t(同99%)を見込んでいる。

【F1去勢】11月の東京市場交雑種(F1)去勢牛税込み平均枝肉単価は、B3が1453円(前年同月比88%)、B2は1195円(同82%)となった。前月に比べ、それぞれ66円、38円上げた。

同機構は、12月の交雑種(雌含む)の全国出荷頭数を2万2700頭(同

108%)と見込んでいる。

【和去勢】11月の東京市場和去勢牛税込み平均枝肉単価は、A4が2533円(前年同月比96%)、A3は2222円(同91%)となった。前月に比べ、それぞれ194円、197円上げた。

同機構は、12月の和牛(雌含む)の全国出荷頭数を4万5600頭(同103%)と増加を見込んでいる。全体の出荷頭数は9万8700頭(同103%)としている。国産品、輸入品を合わせた出回り量は、前年同月をかなり上回る(同108%)と見込んでいる。

最需要期であり、寒冷による鍋物需要の活発化と年末年始向けの手当てで引き合いが強まるとみられる。

出荷頭数・輸入冷蔵品が前年を上回る見込みだが、強含みの展開が予想される。年末年始向けの手当てが終われば、下げの展開が見込まれるが、年明けの初セリが例年より遅く、仕入れが続くことも予想される。

このようなことから、向こう1ヵ月の大阪市場の税込み平均枝肉単価は、乳去勢B2が1000~1050円、東京市場の同枝肉単価は、F1去勢B3が1450~1550円、B2は1200~1300円、和去勢A4が2500~2600円、A3は2200~2300円での相場展開か。

最需要期で相場強含み

11月の子牛取引状況

(単位: 頭、kg)

ブロック名	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	141	693	284	295	220,856	239,961	778	813
	F1去	1,221	996	315	317	473,306	444,213	1,503	1,401
	和去	1,376	1,331	312	314	797,354	786,573	2,556	2,505
東北	乳去	39	2	289	207	228,683	94,500	791	458
	F1去	1	9	306	293	314,280	287,640	1,027	982
	和去	1,181	1,883	305	305	810,714	774,484	2,660	2,538
関東	乳去	12	18	229	227	121,590	107,880	530	475
	F1去	163	164	299	308	405,006	400,041	1,356	1,300
	和去	744	876	262	273	753,896	766,512	2,880	2,808
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	80	1	266	172	695,560	629,640	2,615	3,661
東海	乳去	12	8	318	280	253,710	195,345	798	697
	F1去	84	97	306	306	398,262	378,088	1,302	1,234
	和去	462	223	262	256	779,886	775,841	2,973	3,036
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	1	-	176	-	270,000	-	1,534
	和去	465	381	257	255	945,759	973,797	3,683	3,824
中国	乳去	60	78	272	270	188,586	190,010	692	705
	F1去	217	192	305	299	407,264	397,749	1,335	1,332
	和去	523	853	285	286	720,250	729,106	2,526	2,545
九州・沖縄	乳去	1	10	128	318	111,240	168,264	869	530
	F1去	153	350	307	311	416,322	408,147	1,356	1,312
	和去	7,603	7,453	286	290	809,411	775,217	2,826	2,673
全国	乳去	265	809	281	291	211,280	230,519	752	792
	F1去	1,839	1,809	312	312	451,204	423,878	1,446	1,359
	和去	12,434	13,001	287	292	804,398	778,481	2,803	2,666

注) (独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

豚肉の脂肪交雑を判定

含量4%以上で霜降りに

(独)家畜改良センターはこのほど、(公社)日本食肉格付協会と共同で新たに豚肉の脂肪交雑基準(PMS:ポークマーブリングスタンダード)を作成した。

豚肉の脂肪交雑は食味に重要で、やわらかさ、風味、多汁性を向上させる。国内では、多数のブランド豚肉が出ているが、統一的な判定基準がなかった。生産から流通に及ぶ様々な分野から要望があり、作成された。

PMS基準は、No.1~6までである。No.1は粗脂肪が2%未満で欧米産や赤身が多い豚肉に多い。No.2・3は

粗脂肪が2~3%で、国内で広く流通している豚肉。No.4以上(粗脂肪4%程度以上)は、霜降りとされる。また、10%を超えるものもあるが、多過ぎると余分な脂肪が増加していたり、筋肉断面が小さいこともあるため、必ずしも好ましいとはいえない。

枝肉ロース肩部のカット面での評価や見た目の判断(脂肪部の面積)を重視しなければならない。豚肉は色が淡く、牛肉で使用している方法では難しい。そのため、枝肉カット面の胸最長筋部を用いて、画像解析法(センサーなどを使い、画像を取得した後、パソコンで処理し判断する)による脂肪面積割合と化学分析による粗脂肪含量との関係が一致するように調整した。

同基準は、通常の枝肉格付の必須項目ではない。18年1月から有料で日本食肉格付協会が証明書を発行する。



豚枝肉

鍋物需要が堅調で、強もちあいの展開続くか

11月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が581円(前年同月比114%)、中物は558円(同115%)となった。前月に比べ、それぞれ33円、32円上げた。前年同月を大きく上回る相場が続いている。

全国の出荷頭数が前年同月をやや下回る一方、例年より早い気温の低下による鍋物需要などから、堅調な展開となった。

農水省食肉鶏卵課は、全国の肉豚出荷頭数を12月は151万5000頭(同102%、過去5年同月平均比101%)、1月は143万4000頭(同103%、同103%)と、両月とも前年を上回ると予測している。

素牛

枝肉価格の上昇で、素畜の需要引き続き強い

【乳素牛】11月の素牛価格(左表)の全国1頭当たり税込み平均価格は、乳去勢が21万1280円(前年同月比103%)、F1去勢は45万1204円(同96%)となった。前月に比べ、乳去勢は1万9239円下げ、F1去勢は2万7326円上げた。

F1の枝肉相場は需要期入りでじり高となり、素牛の引き合いも強まった。

枝肉需要期で肥育牛出荷が増えているため、両品種の素牛需要は引き続き強く、もちあいで推移するか。

【スモール】11月の全国主要23市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、速報値)は、乳雄が

農畜産業振興機構は、12月の輸入量を総量で7万3800t(同100%)と予測。うち冷蔵品は好調な需要を背景に、過去5ヵ年平均を上回る3万2600t(同103%)を、冷凍品は年末に向けて手当てする動きもみられるものの、前年同月をやや下回る4万1200t(同98%)を見込んでいる。

鍋物需要の増加に加え、年末年始向けの手当てが見込まれる。出荷頭数・輸入量は、大きくは増えない予測となっている。

堅調な需要により、引き合いが強まり、相場は強もちあいの展開が予想される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が570~600円、中物は520~550円での相場展開か。

11万8096円(前年同月比119%)、F1(雄雌平均)は22万7014円(同87%)となった。前月に比べ、それぞれ842円、4992円上げた。品薄感から、両品種とも強もちあいで推移した。

出生頭数が前年に比べ減少しており、今後も両品種の取引頭数不足が続くとみられ、もちあいで推移するか。

【和子牛】11月の和牛去勢価格の全国1頭当たり税込み平均価格は80万4398円(前年同月比91%)となった。前月に比べ2万5917円上げた。

軟調だった枝肉価格が上伸したことや夏場の枝肉需要期に向けた導入で、2ヵ月ぶりに前月を上回った。

肥育牛出荷の増加にともない、素牛導入は活発化するとみられ、強含みの展開が続くか。